

平成29年度
第1回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成29年6月14日（水） 13:30～16:10

場所：一般財団法人 日本環境衛生センター 東京事務所

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 研究科長 教授	吉岡 敏明

オブザーバー

東京二十三区清掃一部事務組合 主任主事	箆島 保
---------------------	------

議事要旨

I 本日の議事

1. 飯舘村小宮地区対策地域内廃棄物処理業務（減容化处理）について
2. 安達地方における農林業系廃棄物等処理業務（減容化处理）について

II 検討内容

1. 飯舘村小宮地区対策地域内廃棄物処理業務（減容化处理）について
冒頭、神鋼環境・神戸製鋼共同企業体（以降、神鋼・神戸JVと記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 解体工事における課題について

委員より、今回の焼却炉解体工事における課題について質問があった。神鋼・神戸JVより、除染作業を炉外から実施し、除染後の確認は目視観察が必要であるため炉に入るという2段階の手間がかかるが、技術的な課題はないとの回答があった。

(2) 解体廃棄物の表面汚染密度について

委員より、解体廃棄物の表面汚染密度の測定方法と除染目標達成の判断方法について質問があった。神鋼・神戸 JV より、解体廃棄物の搬出前に飛灰に接触していた設備の内面も含めて全域で表面汚染密度を測定し、確実に 4 Bq/cm² 以下で、汚染がないことを確認し搬出するとの回答があった。

(3) 除染作業における作業員のばく露防止対策について

委員より、除染作業時、作業効率の低下や暑さにより作業員自らエアラインマスクを外して被ばくするというケースが想定されるが、どのように考えているかとの質問があった。神鋼・神戸 JV より、呼吸が楽なエアラインマスクの採用、作業員に対する教育の徹底、十分な休憩時間をとる等の熱中症対策及び日々の安全管理の徹底によってばく露防止を図るとの回答があった。

(4) 除染作業により生じた水の放射性物質の濃縮について

委員より、除染作業に用いる水の循環再利用による放射性物質の濃縮が懸念されるが、安全側の条件で計算しても、放射性物質濃度はかなり低いと推定されることから、産業廃棄物としての処分先で適切に管理されていればと問題ないとの意見があった。

2. 安達地方における農林業系廃棄物等処理業務（減容化处理）について

冒頭、日立造船・大林組特定共同企業体（以降、日立・大林 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 他施設で蓄積した運転ノウハウの共有について

委員より、他の仮設焼却施設において蓄積されたノウハウをもとに安定した運転ができるかとの質問があった。日立・大林 JV より、今回対応する燃焼装置は浪江町に設置した仮設焼却施設で採用したものと同型であり、運転方法、制御方法を共有し活用するとの回答があった。

(2) 作業員への生活指導について

委員より、外部からの人の流入に対する住民の懸念が想定されるが、どのように考えているかとの質問があった。日立・大林 JV より、宿舎での集団生活の中で適切に指導するとの回答があった。

(3) 窒素酸化物対策について

委員より、廃棄物の焼却により発生する窒素酸化物対策について、窒素分の多い農林業系廃棄物の処理量が多いため、投入する廃棄物の種類を均質化する等の従来の対策で対応可能か、事前に把握すべきであるとの意見があった。

(4) 湿式灰出し装置について

委員より、湿式灰出し装置における放射性物質濃縮の可能性について質問があった。日立・大林 JV より、水を入れ替えないと放射性物質が濃縮することになるが、流水洗浄等による水の供給と、主灰の吸水による水の持ち出しで内部の水が置換されるため、濃縮はないとの回答があった。

以上